

脳腫瘍全国統計調査を用いた高齢者髄膜腫の全国調査研究

1. 研究の対象

2001年から2008年まで、脳腫瘍全国統計に登録された脳腫瘍のうち、髄膜腫症例。

登録：脳腫瘍全国統計登録施設

2. 研究目的・方法

本邦に存在する脳腫瘍の唯一のデータベースである、脳腫瘍全国統計を用いることにより日本の高齢者髄膜腫の治療の特徴、転帰などを把握でき、包括的客観的データになるため、今後の治療方針の決定やガイドライン作成の基礎データになりうる。国内で脳腫瘍全国統計を用いた同様な研究はなされていない。海外では数個の論文があるが、日本が最も高齢化しており、オリジナリティのあるデータと考えられる。今後、我が国は未曾有の高齢化社会を迎え、高齢者医療では世界をリードしており、エビデンスを示していく使命がある。良性脳腫瘍である高齢者髄膜腫に対しても治療適応、自然歴などについてのエビデンスを作成する義務がある。そこで、全国脳腫瘍統計データより、65歳以上の髄膜腫について本邦の現状について調査報告する。脳腫瘍全国統計データベース研究は、脳腫瘍患者の病理診断・年齢・性別・治療内容・生存確認などを全国調査し、脳腫瘍の疫学・患者背景・生存率を明らかにし、脳腫瘍患者の治療に役立てることを目的に発足されたわが国唯一のデータベースで、データは公開されている。この脳腫瘍全国統計データベースを使用して二次解析（サブ解析研究）を行うものである。本研究においてはデータベースのうち、年齢、性、腫瘍の大きさ、部位、治療方法、術前後のKPS、転帰等（別紙1）に関するデータを用いる。サブ解析研究の倫理審査は広島大学で審査承認後、データ管理元である脳腫瘍全国統計委員会からデータ提供をうける。提供データは共同研究機関で共有し、各共同研究機関で様々な方面よりデータを解析する。本研究においてはデータベースのうち、年齢、性、腫瘍の大きさ、部位、治療方法、術前後のKPS、転帰等に関するデータを用いて本邦での非高齢者、高齢者髄膜腫を比較し、治療成績、合併症の把握に役立てる。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究においてはデータベースのうち、年齢、性、腫瘍の大きさ、部位、治療方法、術前後のKPS、転帰等に関するデータ等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

広島大学院医歯薬保健学研究科 脳神経外科学 井川 房夫

広島市南区霞 1-2-3 TEL:082-257-5226

研究責任者：

広島大学院医歯薬保健学研究科 脳神経外科学 井川 房夫